

中土佐町社協だより

ふくしの

# チカラ

秋号



2022年10月

## 紅葉した大イチョウ

実は10年前の写真です。当時笹場にお住まいだった方から提供していただきました。生命力にあふれ、金色に輝いていますね♪

## Contents

### 特集 最終回

障がいのある人の「働く」を考える…P2～8

つどい処・萬屋事務所移転のお知らせ（障害福祉課より）……P9

災害ボランティアセンター（地域福祉課より）……P10

赤い羽根共同募金運動スタート！（中土佐町共同募金委員会より）……P11

たくさんのご寄付をありがとうございました（お礼） / 編集後記……P12

だん談  
てい鼎

## 障がいのある人の「働く」を考える

3人の専門職による考察

最終回

昨年から始まったシリーズ『障がいのある人の「働く」を考える①④』では、障がいのある人に、今の職場での様子やここに至るまでの経緯、働く上で大切にしていることなどをお話しいただき、その人にとって「はたらく」とは何かを読者の皆さんと一緒に考えてきました。

5回目の今回は、彼らのはたらくを支える専門職に大いに語ってもらうことにしました。それぞれの立場から見える現状や課題、課題解決のアイデアなど、様々な観点からお話をうかがいます。障がいのある人の「はたらく」だけでなく、これからの中土佐町の障害福祉のあり方のヒントになればと思います。

住民の皆様にも一緒に考えていただくことを期待して、このシリーズを締めくくります。

### 【鼎談者】

**太田 真紀さん**（社会福祉法人太陽福祉会 障害者就業・生活支援センターこうぼん

主任就業支援ワーカー）

**平井 千鶴さん**（中土佐町相談支援事業所 管理者）

**植田 由美さん**（就労継続支援B型事業所（鯉乃國の萬屋） 管理者）

どんなお仕事をされているのか

教えてください

く働き続けていくための支援をしています。就労希望者だけでなく、雇用する側の事業所からの相談も受けています。

**太田** 私の仕事は、働くことを希望している障がいのある人に一般就労の提案と長

**平井** 私は、中土佐町在住の障がいのある

人の相談を受け、その人のその時々ニーズに合わせて福祉サービスの調整をしています。

「働くこと」に関しては、相談者の希望により、福祉的就労を希望する人には具体的な内容の説明をし、事業所の見学や体験、利用までの調整をしています。一般就労を希望する人に対しては、障害者就業・生活支援センターにつなぎます。

また、仕事まではいかないけれど、地域の役に立ちたいという人には、地域活動支援センターの生産活動（行政や地域の人から簡易な請負作業を行う。）やボランティアセンターを紹介しています。

**植田** 就労継続支援B型事業所の植田です。就労継続支援B型事業所の役割として、一般就労を目指されている人がステップアップしていただけるための支援や、一般就労を望まない障がいのある人の働く場を提供しています。作業内容は、中土佐町内のリサイクル資源の中間処理の仕事と、弁当やよろずaiの製造販売を従来から行っていて、去年の春から役場の清掃業務もやらせていただいています。

一般就労の現況はどうですか？

**植田** では太田さん、中土佐町の障がいのある人の一般就労の状況はどうですか？

**太田** 令和3年度の中土佐町の障がいのある人の就職者数は公的機関に就職された1名となっております。



主任就業支援ワーカー 太田 真紀 さん

企業実習では4名が体験し、そのうち令和4年度に1名が就職しています。高幡圏域全体で、昨年は25名が就職しました。

**榎田** そう聞くと、中土佐町の人数は少ないですが…。太田さんから見て、中土佐町の就職者数の少なさの背景にはどのようなことがあるのでしょうか？

**太田** ひとつには移動手段の問題があります。中土佐町に限らず高幡圏域において共通の課題となっており、私どもも通勤支援の取組みを進めています。「今までバスに乗ったことがない。」という人に対して

バスの乗り方の練習をしたりしています。現状の運行時間では勤務時間に合わないという点も実際出てきているので、この点については行政の力を借りたいところです。

**太田** 高幡全体の人口比率から言えば、中土佐町は少ないと思われませんが、私は就職者数の多寡よりも、長く働き続けること、その職場に定着することの方が大切なんじゃないかなと思っています。

安定して働くには、日常生活が安定して送れているかが重要なポイントです。その点、中土佐町では相談支援専門員、保健師や栄養士の皆さんが連携してサポートされていることから、就労の継続に繋がっているように感じます。

**榎田** 就職者数より定着数ということですが、中土佐町で一般就労をしたい人数が少ないのですか？

それとも就労希望者と企業を結び付けるマッチングに課題があったり、そもそもその人の希望する仕事や事業所がないということでしょうか？

**太田** そうですね、働きたいと希望する人も少ないですし、あとは、事業所とのマッチングですね。

決して事業所数が多いということではないので、皆さんがやりたい仕事に就けるかと

いうとそうではないでしょうしね。それは障害者手帳を持っていても持っていないくても変わらないことではあります。」「働き続ける力」を町全体でサポートできるといいと思います。

右…相談支援事業所管理者 平井さん  
中央…就労継続支援B型事業所管理者 榎田さん  
左…就業・生活支援センターこうばん 太田さん



**樋田** 働き続けることにおいて、何がキーになってくるのでしょうか？

**太田** 福祉専門職のサポートについて先ほど触れましたが、中土佐町の事業所は、病気など体調に配慮してくださって、すごく理解があると感じています。

**樋田** 職場での理解は支えになりますね。では、平井さんから見ただけの障がいのある人の就労に関して、中土佐町の良さ、また、課題はどこにあると思いますか？

**平井** 生活を支える上では、先ほど話題に出た移動手段のバスパスは、中土佐町の良さだと思います。また、地理的に須崎市と四十万町の間にあるため、企業や福祉事業所の多い両市町へのアクセスが容易であることも利点だと思います。

ただ、町内には福祉就労のB型事業所がひとつしかなく、作業の種類も限られているため、就労の選択肢の幅が狭いのは残念ですね。

高校を卒業した人が選択肢の多い高知市内に目を向ける人が増えてきています。若い人が働きたいと思う福祉サービスがあるといいですね。

先ほど話に出ていたような、働き続けることができる生活基盤があること、働きたいと思える事業所があることが大切だと

思います。

**樋田** 生活基盤を整えるというのは具体的にはどんなことですか？

**平井** 今は、親と一緒に生活してサポートを受けている人が多くいますが、親御さんが亡くなった時に、生活基盤を支えられるホームヘルプサービスやグループホームなどが利用できると思います。働き先が増えても、生活基盤のサービスが充実していないと、働ける人がいないという状況になるかもしれません。

**樋田** 福祉的就労のB型事業所も課題を抱えています。



B型事業所管理者 樋田 由美 さん

B型事業所の利用者が一般就労に移れば、事業所を退所されます。また、現在の利用者の高齢化が進み、19人のうち、50代が4人、60才以上が4人で、働く時間や日数を減らしている人もいらつしやいます。利用人員の就労日数によって支給される給付費で職員の人件費、事業運営費を賄っているため、利用者の減少は事業所の経営に直結します。経営を安定させ、みんなが安心して働ける場をどうすれば維持できるのかと悩んでいます。

**太田** 萬屋だけの問題ではなく、どの町の事業所も同じような課題を抱えています。

ITなど若い人が関心を持つパソコンのような作業から、内職に近いような作業まで、発達障害のある人が就労の訓練する場所がまだまだ少なく、そのような場所が求められています。作業の数があまり多くなると、事業所はたいへんだと思いますが…。

B型の事業幅の拡大と利用者の選択肢の増加を目指した新たなB型事業を模索し、その取り組みを始めている所も出てきています。

**平井** 最近では、その人その人に合わせた個別の支援が求められる時代なのかなと思います。以前は、みんなと一緒に作業をして一日過ごせば、それで良かったとしていましたが、今はその人の特性に配慮した、より細や



相談支援事業所管理者 平井 千鶴 さん

かな個別支援が求められているのだと思います。そのため、B型事業や相談支援など障がいのある人に関わる支援者にも高度なスキルが求められてきていると感じますね。

**樋田** なるほど。発達障害などその人の特性にもよると思いますが、現在のB型事業所の仕事や進め方に馴染みにくい人もいらっしゃると思います。

**平井** 今の就労継続支援では、一般就労に

いく力が付いた人が、次のステップに移る流れになつていますが、就労支援事業所で働く中で、今の生活のまままで過ごすことで満足している人が多くいらっしゃいます。外で働くイメージを持たなかったり、とてもハードルの高いことだと考えているからかなと思います。

実際にやってみて経験することが大切ではないでしょうか。それは、障がいのある人と事業所がお互いを知り、どんな仕事合っているのか分かる機会になります。

企業、就労支援をしている機関や行政が共同し、障がいのある人が気軽に仕事を体験する機会を作れるとよいのではないかと考えています。

**太田** 中土佐町でこのような話ができるのはうれしいですね。

**平井** B型事業所がそのような仕事を請け負うのも良いでしょうし、B型事業所に所属しながら、企業の仕事をし、その企業に定着できる支援をB型事業所が担うというようなことができれば良いですね。

その辺がクリアできれば、企業に「この人なら継続して働いてもらってもいいかな。」と思ってもらえるのではないのでしょうか。

障がいのあるAさんではなく、「Aさんはこんなサポートがあれば働ける。」と思ってもらえるような機会を作っていけると面白

いのではないのでしょうか。

**太田** 福祉サービスを利用している障がいのある人と企業で働く人というように、はつきりと境界で分けられない仕組みが作れると良いですね。

**平井** 施設外支援も一つの方法だと思いますが、福祉の壁を越えた、「境目のない結びつき」を可能とする企業が名乗りを上げてくれれば、障がいのある人の雇用環境も大きく変わると思いますね。

「合理的配慮」の問題も一気に進むと思いますよ。  
そういった賛同企業をどこかで募ってみますか？

**太田** 実際に、他圏域のB型事業所の利用者が、そこに籍を置きながら週1回の短時間アルバイトをして頑張っているケースがいくつかありますね。週1回の短時間アルバイトをすることで、日頃、B型事業所で取り組まれている身だしなみや生活リズムを整えるということへの意識が変わってきたり、支援員への「報告・連絡・相談」も少しずつできるようになつてきているそうです。

さらに長い時間働くことができるよう頑張っていると聞きました。

企業としても、週一の短時間アルバイトになかなか応募がないため、とても助かってい

ると聞きましたね。

仕事の手際が良いとはとても言えないけれど、採用した理由は「人柄がよいから」と仰ってました。障がいが重いか軽いかではないですよ。

**榎田** 障害の軽重ではなく人柄、なるほど分かる気がします。職場とその人がマッチするかどうかは、実際に体験してチャレンジしてみないと、わからないですよ。

**太田** 企業と仕事をしたい人が、もつと出会える場があるといいですよ。

**平井** B型事業所にいると、力はあるけど一般就労を希望していない人は、見学会や体験の場があっても「いや、今の仕事のままで良いです。」となってしまふ。

経験していいことを想像して考えることが難しい人が多いので、経験する機会は大切だと思います。

**榎田** 一般就労を希望する、しないに関わらず経験する場ということですね。

**平井** そのような取り組みに賛同してくれる企業やB型事業所があるのかわからないですが。

**太田** とりあえず、鯉乃國の萬屋から始め

てみてはどうでしょう。

皆さんが中学生の頃、職業体験をされたと思います。良い思い出の人も、そうでない人もいると思いますが、誰しもこうした体験をすることは必要だと思います。

**榎田** 面白い取り組みだと思いますが、実現させるには、現場を回しつつ、就労体験にも職員を配置する必要がありますね。

**太田** 事業所のカラーを持つ。選ばれる事業所づくりをするのが大切ではないでしょうか。我々の仕事もそうですし…。

**平井** 人口減少もありますし、事業所の経営も難しくなってきたでしょうね。

**榎田** 従来からの事業活動を見直す時期に来ているのかもしれないですね。

**平井** 国の目指す方向は、福祉的就労から一般就労への移行の推進です。現状では一般就労をしつつB型への通所は基本的にはダメですが、一定期間なら可能とするようになってきています。B型事業所に通いつつ、一般就労にチャレンジしていくという選択肢も出てきたのかなと思います。

**榎田** 町民の皆さんに、この場を通してお伝えしたいことがありますか。



**太田** 就労体験にご協力いただければ、とてもうれしいです。

**平井** そうですね、町内には障がいのある人で私たちが介在せず一般企業で働いている人もいます。企業が「この人はこういうところが苦手だな。」と認識してそれを許容してくれている。いろいろな人を受け入れてくれる中土佐町になるといいなと思います。〇〇障がいのAさんではなく、ちよつと苦手なところがあるAさんを働かせてくれる企業が増えてくれるといいのと思います。

**太田** 何かモデルケースができると良いですよ、そうすれば周りの人も「自分もいけるのではないかな。」と思うかもしれません。そうすれば、地域も変わってくるのではないかな。

**平井** B型事業所外での経験を通じて、一般就労に行く人が増え、萬屋の経営が厳しくなるのも困りますよね。萬屋がなくなること、所属感や居場所を目的に働きたい人たちの行き場所がなくなること、困るので、その部分は残してもらいたい。

**太田** その部分はどうしても残るでしょうね、そういった目的で利用されているB型は、どの町でも必要だと思えます。

**植田** 手順通りの作業を繰り返す仕事に適した人は減ってきています。また、B型の働き方が合わない人も出てきています。中土佐町のような人口が少ない町で、それぞれのニーズに対応するためにはどうしたらいいでしょう。

**平井** 高齢者のコツコツ頑張るグループと、作業に重きを置かず、自分の居場所や仲間との交流を大切に。「まったくグループ」、一般就労にチャレンジするグループの3つくらいに分けて、それぞれの目的に合った作業や事業の運用方法を考えていくといいのではないのでしょうか。

**太田** B型事業所では、利用者のニーズによって作業内容を分けているところが増えてますね。

**植田** なるほど、他の事業所がどんなふう運営しておられるのか勉強しないとイケないですね。

#### 手を携えて 地域で

#### 一緒に生きていくために

**太田** 同じ町民としていろいろな人がいるというのを知ってもらえればいいのでしょうか。地域で一緒に生きていく同じ住民とし

て…。

一般就労だけではなく、B型事業所を選択する人たちも中土佐町と一緒に支えている人たちであるということを感じられる場が欲しいですね。地域の昔からの行事だけでなく、支える人と支えられる人で分けるのではなく、ひよつとして働いてもらって助けてもらっていることもあるのかもしれないし…。企業や町民の皆さんからいいアイデアがほしいですね。

**平井** 中土佐町は良い意味で、名前を出すと「ああ、あの人か」と知っててくれるところがあります。「あの人はお店でよく見かける」や「ちよつと気になるあの人」というように、障がいのある人のことも知ってくださる。でも知っているだけで関わりがないので、見た目の印象で「ちよつと怖い人」とか思われてる人もいるのだと思います。実際に子ども向けの福祉教育で関わってみると「怖くない人だった」、「優しいおじさんだ」というように、その人の印象が変わります。

企業の人と交流ができたり、地域活動支援センターの交流の場に参加してもらうなど、お互いに人として知り合う機会を増やしていけるといいのかなと思います。

例えば、企業の中で「こんなことをするので手伝ってもらえないだろうか。」とか、「ボランティアしてくれる人いないかな。」など企業側から声をかけてくださったら、喜ん

で「手伝うよ!」という若い力がきつとあ  
るはずです。

(完)

今日はそれぞれの立場から「障がい  
のある人のはたらく」について、お話を  
うかがってきました。

障がいのある人、障がいのない人、男、  
女、若年、高年、古くは身分の違いによ  
って、あたかもその領域のどこに属する  
かで「人」を見、価値の判断材料にして  
きた側面があるのは否めないと思いま  
す。

また一方で、「ボーダーレス」といった  
言葉に象徴されるように、境目が無いと  
ころでの社会の有りようが、徐々に論議  
される時代になってきていると感じて  
います。

「障がいのある人のはたらく」を様々  
な観点から考察することで、「はたらく」  
ことだけではなく、私たちの日常のあり  
方や人との接点の大切さ、マジヨリテイ  
とマイノリティ(多数と少数)の意味す  
るもの等々、示唆に富んだ鼎談になった  
ことをとてもうれしく思います。

福祉に携わる人だけでなく、多くの人  
が何かを感じてくださることを願って  
このシリーズを終えたいと思います。

(榎田由美)



就労継続支援B型事業所  
鯉乃國の萬屋の「はたらく」風景



みんなちがって  
…

…  
みんないい!

一所懸命  
はたらく!..



「中土佐町相談支援事業所」  
 「中土佐町地域活動支援センターつどい処」  
 「就労継続支援 B 型事業所 鯉乃國の萬屋事務所」  
**移転のお知らせ**

つどい処と萬屋は、令和4年9月19日に引っ越しました。

これからも、障がいのある方の思いや暮らしに寄り添い、その人らしい生き方を共に考え歩む事業所でありたいと思っております。今後とも、ご協力よろしくお願いいたします。



新住所：中土佐町久礼 6551-3 (久礼老人憩いの家)

電話：つどい処/中土佐町相談支援事業所 0889-52-2880 (FAX 兼用)

萬屋事務所 0889-52-4303 (FAX 兼用)

より一層がんばります！



お気軽にお立ちよりください



つどい処のメンバーより

新しいつどい処は、公園が近くにある、地域の方も気軽に立ち寄りやすい場所になっています。

これまで以上に、地域の方と一緒に楽しんだり、学んだりする活動が増えたらうれしいなど、ワクワクしています。つどい処に、ぜひお立ち寄りください！



# 災害ボランティアセンター

## 《日常を取り戻すための復旧加速。災害ボランティア活動》

### 他人事ではない風水害

毎年のように日本のどこかで風水害による被害が出ている。中土佐町でも2年続けて水害による大きな被害を受けた。怖いのは津波だけではないことを思い知らされた。

テレビ等の報道で、家の中に押し寄せた土砂や瓦礫を大勢の人が協力して運び出す姿を目にすることがある。全国各地から集まるボランティアが被災地の生活再建に向け救援活動を行う災害ボランティアの様子である。

### 災害ボランティアセンター

今年7月の豪雨に伴い町内では初めての災害ボランティアセンターを開設した。ボランティアの募集を町内に限定し、2日間で延べ31人のボランティアが36件のニーズに対応することができた。

発災後、命を守る行動を優先させた後の生活の復旧に取り掛



かるタイミングで、状況に応じて災害ボランティアセンターが立ち上がる。

中土佐町では、行政の災害対策本部と社協の災害対策本部の協議によりその可否が決定される。立ち上がりが決まれば、中土佐町災害ボランティア連絡会と社協が災害ボランティアセンターの協働運営を行う。被災

者のニーズ把握やボランティアの受け入れ、ニーズとボランティアの作業調整やボランティアの活動支援を行う。公的支援では対応できない被害も多く、ボランティアによる細やかな支援が生活再建を加速させる力となる。

### 災害ボランティア活動

活動内容は、土砂の掻き出しやゴミの搬出等の力仕事だけではない。公的支援や住民同士の助け合いでは補いきれないニーズに対しての支援全般で、被害の状況によつては長期的に必要とされるものもあり、子どもの学習支援や高齢者への傾聴など精神面に寄り添うボランティアも重要な役割を持つ。

自分の出来る範囲での協力が、被災された方の日常を取り戻す活

### 災害ボランティア活動者の感想

福中賢一さん

(中土佐町教育研究所)

これまでも何か地域の役に立ちたいと思いながら、その機会が持てずにいました。初めて災害ボランティア活動に参加し、実際に被害に遭われた現場に何うと依頼された以上のことにも協力したい気持ちになりました。しかし、少人数のボランティアで出来る範囲は限られていて、もどかしさを感じました。そんな中、活動先や近隣の住民の方からは感謝していただき、活動を通じて人の温かさを感じる事ができました。



10月1日  
より

## 赤い羽根共同募金運動が始まりました！

3年前まで毎年募金運動開始日の10月1日に町内各地で街頭募金を実施して  
いました。ここ数年コロナの影響で街頭募金は中止して  
いますが、地区長さん、常会長さんの協力を得て、戸別  
募金の活動や法人募金の取り組みを実施しています。

今年も皆さまのご協力、よろしくお願いいたします。



### 【令和3年度に町内で集められた募金額】

戸別募金（各常会を通じて集められた募金） 1,115,500 円  
法人募金（企業向けの大口募金） 310,000 円  
募金箱（社協本所、各あったかふれあいセンター） 4,200 円  
合計 1,429,700 円

内、約7割が中土佐町へ  
助成され今年度の活動に  
役立てられます

### こんなことに使われてるよ！

令和3年度活用内容をご紹介します



小中学校で行われてい  
る福祉学習や、地域の  
方々とのふれあい学習



長沢地区で開かれた長沢女子会のモーニング

その他、町老人クラブの活動や高齢者の閉じこも  
り防止につながる活動、災害に備えた整備など…

### 対象団体

中土佐町で見守りや生活の助けにつながる活動、  
いきがいや地域を盛り上げる活動を行っている  
団体・組織を対象とします。

### 募集期間

11月1日～12月28日まで

\* 申請書、事業計画書等の作成が必要です。

令和5年度の助成を受けたい  
団体を募集します！

問い合わせ先  
中土佐町共同募金委員会  
(中土佐町社会福祉協議会内)  
☎ 52-2058 担当: 中平

### 申請から事業報告までの流れ

申請書受付⇒配分審査委員会にて決定承認⇒来年（令和5年）の6月末～7月初旬に決定通知及び助成金交  
付⇒事業実施⇒実施後事業報告書提出（〆切1月下旬）

前号に引き続き、「中土佐町第3期地域福祉計画」の概要についてお伝えします。

前号では各地域の『目指す姿』をご紹介しました。各地域の地域性が表れていて、これまでの取り組みや特色を活かした『目指す姿』でした。その姿に向け、アクションプランを立て、これから5年をかけて取り組みを進めていきます。今号では、各取り組みをご紹介します。



【上ノ加江地域】

1. 多様な住民の社会参加を通じた見守り合い（小地域ケア会議の継続、地域行事など交流の場を通じてつながりが深められる場づくり）
2. 地域のつながりを活かした防災活動（勉強会や訓練の実施、行政や自主防災と協働の取組）

【久礼地域】

1. 世代間の交流の機会を増やします（作品展などの開催を通じた取り組み）
2. 地域での支え合い、見守りの仕組みづくりを継続して行います
3. 地域福祉の担い手づくりに取り組みます

【矢井賀地域】

1. お互い様の見守り・助け合いの継続
2. 災害に強い地域づくり  
（小矢井賀）自助・共助・公助の連携  
（大矢井賀）サテライトを起点に防災学習や避難訓練の継続、自主防災組織や消防団との連携

【大野見地域】

1. 小地域ケア会議の継続と見守りの充実（つながる安心カードをツールに住民同士での声かけや行政・社協と連携）
2. 地域住民の生きがいづくりとつどいの場の充実（「大野見みんなの文化展」開催を通じて多世代の交流や活躍の場づくり）

たくさんのご寄付をいただきました

（順不同・敬称略）

＊切手

中沢 建夫 ビコット

＊その他

澤村 淳二（BOXティッシュ120箱）  
田中鮮魚店（マスク40箱）  
坂本一夫（笹場施設へお米）

＊プルタブ

大隅 孝子 西村 尊明 黒原 昭子 森本 節子 山崎 朝子  
黒原 喜久 濱松 壽美子 山本 ひいろ 西村ここは  
藤田 詩

匿名希望…数名



皆さま、温かいお気持ちをありがとうございました♡大切にに使わせていただきます。

【編集後記】

近年、各地で線状降水帯が発生し、水害被害の報告が相次いでいます。中土佐町も例外ではなく、二〇二二年立て続けに被害に遭われた地域がありました。田畑や倉庫だけでなく、床上浸水の被害に遭われ、個々での片付けが困難な方々がいらつしやいました。今年は災害ボランティアセンターが設置され、町内からたくさんのかき出しや家具の撤去、掃除や消毒などの活動が行われました。

自然災害とは本当に恐ろしく、人の力ではどうにも止めることができせん。なすすべなく通り過ぎるのを待つしかない状況ですが、日常を取り戻すためには人の力は欠かせません。多くの助けが本当にありがたいと感じた2日間でした。

床上浸水被害に遭われた皆様へ、  
**高知県共同募金災害見舞金**が受

けられる場合があります。詳しくは左記問合せ先迄ご相談ください。

【問い合わせ先】

中土佐町共同募金委員会

（中土佐町社会福祉協議会 本所内）

☎ 52・2058 担当・中平

